

案件概要書

2013 年 4 月 23 日
国際協力機構東南アジア・大洋州部
東南アジア第六・大洋州課

1. 案件名（国名）

国名： ソロモン諸島

案件名： ククム幹線道路向上計画（Kukum Highway Upgrade Project）

2. 事業の背景と必要性**(1) 当該国における道路セクターの開発実績（現状）と課題**

ソロモン諸島国は、100 余の島々から構成される島嶼国であり、55.2 万人の人口を擁する。一方、世界銀行と PRIF（Pacific Region Infrastructure Facility）が作成した報告書によると、当国の道路網の 66%及び車両の 98%は、首都ホニアラ市の存在するガダルカナル島及び第二の島であるマライタ島に集中しており、首都ホニアラ市内では、増加する車両により、慢性的な渋滞が発生しており、人や物の流れに支障を来している状態である。一方当国では、パーム油や鉱物資源の輸出により経済が好調であり、ホニアラ市においても今後更なる経済活動の活性化が見込まれていることから、当国の更なる経済発展のためにも、ホニアラ市内における道路網の整備・改善は、喫緊の課題の一つとなっている。このような状況下、ホニアラ中心市街地とホニアラ国際空港を結ぶククム（Kukum）幹線道路は、ホニアラ市内に存在する上下 2 車線の計 4 車線からなる幹線道路であるが、マタニコ川にかかる橋梁部分で上下 1 車線の 2 車線道路となるため、マタニコ橋前後の区間で慢性的な渋滞が発生している。また、道路舗装の老朽化と排水施設が不十分であることから、熱帯の多雨と増加する交通量による路面の損傷が激しく、経済的にも重要な路線であるにも関わらず、スムーズな物流を妨げている状況である。

(2) 当該国における道路セクターの開発政策と本事業の位置づけ及び必要性

ソロモン諸島国政府が策定した「国家開発戦略 2011 年－2020 年」では、8 つの優先課題の一つである「インフラ整備」において、既存道路の改善による物流活性化の重要性を指摘している。また、「国家輸送計画 2011-2030」においても、ホニアラ国際港やホニアラ市内の重要拠点と国際空港を結ぶ、ククム幹線道路とマタニコ橋の改善の重要性が触れられており、さらに現在開発計画援助調整省が策定中の「国家インフラ投資計画」においても、今後実施が期待される全 89 のインフラ整備事業の中においても、本事業が優先順位 1 位となっている。

(3) 道路セクターに対する我が国の援助方針

2012 年 5 月に日本政府が開催した第 6 回太平洋・島サミットにおいては、持続可能な開発と人間の安全保障を確実にするために、信頼性の高い交通網を整備していくことの重要性が指摘された。また、対大洋州 JICA 国別分析ペーパーにおいては、「経済活動基盤の強化／ライフラインの維持」が重点課題であると分析している。さらに、対ソロモン国別援助方針における重点分野としても「脆弱性の克服」が定められ、運輸交通インフラの整備・維持管理に重点を置くとされており、本事業はこれら分析、方針に合致する。なお当国の道路セクターに対しては、これまで道路建設機材の整備や橋梁の建設にかかる 6 件の無償資金協力を実施している。

(4) 他の援助機関の対応

アジア開発銀行（ADB）、豪州、欧州連合（EU）が連携し、地方部の地方幹線道路の補修・橋梁架替えにかかる支援を行っているほか、豪州と ADB が拠出している運輸セクターファンドを基に、豪州、ニュージーランド、ADB が、道路セクター

を含む運輸セクターでのインフラ整備にかかる関係機関の能力強化と、運輸インフラ開発プロジェクトにかかる技術面からの支援を行っている。

3. 事業概要

(1) 事業の目的

本プロジェクトは、首都ホニアラ中心市街地とホニアラ国際空港を結ぶクウム幹線道路において、既存橋梁の拡幅および道路の改善を行うことにより、渋滞の解消と移動の利便性、物流の改善を図り、もってソロモン諸島国の経済発展に資することを目的とする。

(2) プロジェクトサイト/対象地域名

ソロモン諸島国ホニアラ市

(3) 事業概要

1) 土木工事（マタニコ橋（橋長約 50m）の拡幅（上下 1 車線の計 2 車線→上下 2 車線の計 4 車線）、クウム幹線道路（ホニアラ市役所前ラウンドアバウト～キングジョージ 6 世高校前間約 6Km）の再舗装および排水施設等の改良）（要請ベース：詳細については、協力準備調査にて確認する）

2) ソフトコンポーネントの詳細については、協力準備調査にて確認する。

(4) 事業実施体制

事業実施機関： インフラ開発省

(5) 環境社会配慮・貧困削減・社会開発

1) 環境社会配慮

① カテゴリ分類： B

② カテゴリ分類の根拠： 本事業は、「国際協力機構環境社会配慮ガイドライン」（2010 年 4 月公布）に掲げる道路セクターのうち大規模なものに該当せず、環境への望ましくない影響は重大でないと判断され、かつ同ガイドラインに掲げる影響を及ぼしやすい特性及び影響を受けやすい地域に該当しないため。

2) 貧困削減促進等：経済活動の活性化による、新規雇用の増加が期待される。

(6) 他スキーム、他ドナー、他案件等との連携：特になし。

(7) その他特記事項： ソロモン諸島国では、1990 年代後半から過去部族対立が発端となった治安の悪化や 2006 年には首相選挙結果を巡って暴動があった。2003 年に警察・軍隊を中心に構成されたソロモン諸島地域支援ミッション（RAMSI）の派遣が開始されてからは、治安は比較的安定しているものの注意が必要である。

4. 過去の類似案件の評価結果と本事業への教訓

(1) 類似案件の評価結果

パプアニューギニアで実施された「ハイランド国道ウミ橋架け替え計画」の評価等では、過積載車両が多いという環境下、床版にひび割れが発生し、実施機関による舗装工事を追加的に実施せざるを得なくなったとの評価結果が得られている。

(2) 本事業への教訓

本事業の対象地域においても、幹線道路であることから多くの重量物を積載した車両の通行が予測される。また熱帯域であるため、高温・多雨による影響も予測される。そのため、本事業においては、マタニコ橋の拡幅に関する設計・仕様について、通行車両の特性や現地気候に応じたものを採用することとする。

以上

〔別添資料〕地図

プロジェクトサイト位置図



ソロモン諸島国およびホニアラ市の位置



ククム（Kukum）幹線道路（ホニアラ市役所前ラウンドアバウト～マタニコ橋～キングジョージ6世高校前）